

令和2年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	茨城県		市町村類型	I - 2		指定団体等の指定状況		区分		令和2年度(千円)		令和元年度(千円)		区分		令和2年度(千円・%)		令和元年度(千円・%)			
						財政健全化等	×	歳入総額	26,910,765	19,183,114	実質収支比率	3.7	3.7								
市町村名	つくばみらい市		地方交付税種地	2-5		財源超過	×	歳出総額	26,288,862	18,674,367	経常収支比率	90.3	94.2								
						首都	○	歳入歳出差引	621,903	508,747	(※1)	(96.1)	(98.0)								
人口	令和2年国調(人)	49,872	産業構造(※5)		中部	×	翌年度に繰越すべき財源	157,761	68,351	標準財政規模	12,587,567	11,964,261									
	平成27年国調(人)	49,136			近畿	×	実質収支	464,142	440,396	財政力指数	0.81	0.81									
	増減率(%)	1.5			単年度収支	23,746	-39,514	公債費負担比率	13.2	12.6											
住民基本台帳人口(※7)	令和03.01.01(人)	52,110	区分	平成27年国調	平成22年国調	低開発	×	積立金	376,354	240,141	健全化判断比率										
	うち日本人(人)	51,444	第1次	1,070	970	指数表選定	○	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-								
	令和02.01.01(人)	51,835		4.6	4.6	積立金取崩し額	136,572	494,355	連結実質赤字比率	-	-										
	うち日本人(人)	51,221	第2次	7,096	6,275	実質単年度収支	263,528	-293,728	実質公債費比率	7.1	7.3										
	増減率(%)	0.5		30.5	30.1	基準財政収入額	7,613,002	7,301,954	資金不足比率(※4)	38.4	43.6										
	うち日本人(人)	0.4	第3次	15,086	13,618	基準財政需要額	9,658,776	9,065,966													
	面積(km ²)	79.16		64.9	65.3	標準税収入額等	9,702,958	9,365,633													
人口密度(人/km ²)	630				経常経費充当一般財源等	11,409,055	11,440,505														
世帯数(世帯)	19,971				歳入一般財源等	14,682,152	14,181,589														
職員の状況																					
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	22,295,902	22,364,980										
	市区町村長	1	8,210	一般職員等(※6)	一般職員	337	1,021,110	3,030	うち公的資金	15,902,386	15,835,840										
	副市区町村長	1	6,500		うち消防職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	5,742,947	6,000,172										
	教育長	1	6,060		うち技能労務職員	8	21,720	2,715	収益事業収入	-	-										
	議会議長	1	4,260		教育公務員	26	69,888	2,688	土地開発基金現在高	983,559	983,481										
	議会副議長	1	3,840		臨時職員	-	-	-	財政調整基金	2,149,412	1,909,630										
	議会議員	16	3,620		合計	363	1,090,998	3,006	減債基金	542,282	722,170										
						ラスパイレシ指数		97.4		その他特定目的基金	1,338,908	1,738,976									
	一般会計等の一覧																				
	項番	会計名	事業会計の一覧			公営企業(法通)の一覧			公営企業(法非通)の一覧			関係する一部事務組合等一覧			地方公社・第三セクター等一覧						
(1) 一般会計		(3) 国民健康保険特別会計			(6) 水道事業会計		(8) 農業集落排水事業特別会計		(9) 茨城県市町村総合事務組合(一般会計)		(10) 茨城県市町村総合事務組合(県民交通災害共済事業特別会計)		(11) 茨城県租税債権管理機構(一般会計)		(12) 茨城県後期高齢者医療広域連合(一般会計)		(13) 茨城県後期高齢者医療広域連合(後期高齢者医療特別会計)		(14) 常総衛生組合(一般会計)		
(2) 市営分譲住宅特別会計		(4) 介護保険特別会計		(7) 下水道事業会計				(15) 取手市外2市火葬場組合(一般会計)		(16) 常総広域市町村圏事務組合(一般会計)		(17) 取手地方広域下水道組合(一般会計)		(18) 利根川水系泉南水防事務組合(一般会計)							
		(5) 後期高齢者医療特別会計																			

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、令和元年度は「減収補償債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を、令和2年度は「減収補償債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	8,207,909	30.5	7,785,954	65.6	普通税	7,785,954	94.9	90,296
地方譲与税	254,808	0.9	254,808	2.1	法定普通税	7,785,954	94.9	90,296
利子割交付金	5,593	0.0	5,593	0.0	市町村民税	3,692,662	45.0	90,296
配当割交付金	26,894	0.1	26,894	0.2	個人均等割	94,095	1.1	-
株式等譲渡所得割交付金	37,638	0.1	37,638	0.3	所得割	2,919,862	35.6	-
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	140,782	1.7	-
地方消費税交付金	1,024,398	3.8	1,024,398	8.6	法人税割	537,923	6.6	90,296
ゴルフ場利用税交付金	71,333	0.3	71,333	0.6	固定資産税	3,661,140	44.6	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	3,648,917	44.5	-
自動車取得税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	148,201	1.8	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	283,951	3.5	-
自動車税環境性能割交付金	18,450	0.1	18,450	0.2	釧産税	-	-	-
法人事業税交付金	137,742	0.5	137,742	1.2	特別土地保有税	-	-	-
地方特例交付金	88,499	0.3	88,499	0.7	法定外普通税	-	-	-
個人住民税減収補填特例交付金	75,962	0.3	75,962	0.6	目的税	421,955	5.1	-
自動車税減収補填特例交付金	10,114	0.0	10,114	0.1	法定目的税	421,955	5.1	-
軽自動車税減収補填特例交付金	2,423	0.0	2,423	0.0	入湯税	-	-	-
地方交付税	2,638,276	9.8	2,347,942	19.8	事業所税	-	-	-
普通交付税	2,347,942	8.7	2,347,942	19.8	都市計画税	421,955	5.1	-
特別交付税	285,312	1.1	-	-	水利地益税等	-	-	-
震災復興特別交付税	5,022	0.0	-	-	法定外目的税	-	-	-
(一般財源計)	12,511,540	46.5	11,799,251	99.4	旧法による税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	4,500	0.0	4,500	0.0	合計	8,207,909	100.0	90,296
分担金・負担金	34,827	0.1	-	-				
使用料	190,388	0.7	23,963	0.2				
手数料	27,529	0.1	-	-				
国庫支出金	8,589,503	31.9	-	-				
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-				
都道府県支出金	1,433,411	5.3	-	-				
財産収入	81,768	0.3	26,239	0.2				
寄附金	440,946	1.6	-	-				
繰入金	939,161	3.5	-	-				
繰越金	508,747	1.9	-	-				
諸収入	322,678	1.2	18,189	0.2				
地方債	1,825,767	6.8	-	-				
うち減収補填債(特例分)	231,500	0.9	-	-				
うち猶予特例債	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	536,667	2.0	-	-				
歳入合計	26,910,765	100.0	11,872,142	100.0				

区分		令和2年度	令和元年度
徴収率	現・計	99.3	98.6
(%)	年	99.3	98.8
		99.2	98.3

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	2,763,523	実質収支	49,467
下水道	1,265,539	再差引収支	23,854
上水道	10,322	加入世帯数(世帯)	6,484
工業用水道	-	被保険者数(人)	10,279
交通	-	被保険者	100
国民健康保険	358,394	1人当り	-
その他	1,129,268	保険税(料)収入額	-
		国庫支出金	285
		保険給付費	-

歳出の状況(単位:千円・%)					
目的別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	183,900	0.7	-	183,816	
総務費	8,119,738	30.9	45,912	2,261,498	
民生費	7,240,814	27.5	52,872	3,451,596	
衛生費	1,242,051	4.7	64,076	969,585	
労働費	-	-	-	-	
農林水産業費	419,976	1.6	91,328	218,381	
商工費	252,920	1.0	1,646	176,723	
土木費	2,493,572	9.5	562,494	1,889,901	
消防費	1,433,363	5.5	513,240	941,656	
教育費	2,883,526	11.0	453,944	2,023,893	
災害復旧費	-	-	-	-	
公債費	2,019,002	7.7	-	1,943,200	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	26,288,862	100.0	1,785,512	14,060,249	

性質別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	9,613,049	36.6	6,259,597	6,025,168	47.7
人件費	3,286,378	12.5	3,015,896	2,895,307	22.9
うち職員給	1,970,011	7.5	1,828,667	-	-
扶助費	4,307,669	16.4	1,300,501	1,186,661	9.4
公債費	2,019,002	7.7	1,943,200	1,943,200	15.4
元利償還金	2,019,002	7.7	1,943,200	1,943,200	15.4
内 うち元金	1,894,845	7.2	1,819,043	1,819,043	14.4
訳 うち利子	124,157	0.5	124,157	124,157	1.0
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	14,890,301	56.6	7,444,401	5,383,887	42.6
物件費	3,642,192	13.9	2,501,375	1,993,614	15.8
維持補修費	95,242	0.4	83,799	30,872	0.2
補助費等	8,796,455	33.5	2,991,675	2,240,720	17.7
うち一部事務組合負担金	1,500,956	5.7	1,400,956	1,247,168	9.9
繰出金	1,730,588	6.6	1,451,621	1,118,681	8.9
積立金	579,824	2.2	380,982	-	-
投資・出資金・貸付金	46,000	0.2	34,949	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	1,785,512	6.8	356,251	-	-
うち人件費	81,320	0.3	63,659	-	-
普通建設事業費	1,785,512	6.8	356,251	-	-
うち補助	524,450	2.0	49,927	-	-
うち単独	1,168,183	4.4	260,955	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	26,288,862	100.0	14,060,249	-	-

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	26,888	26,266	622	439	940	22,296	
2 市営分譲住宅特別会計	41	41	0	0	1	-	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							

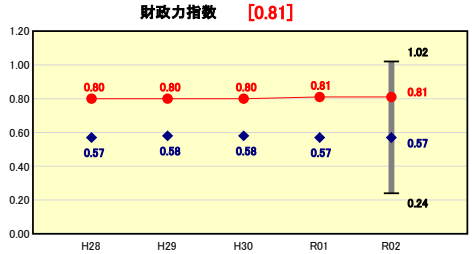
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	52,110人	(R3.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	51,444人	(R3.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	79.16km ²		実質公債費比率	7.1%
歳入総額	26,910,765千円		将来負担比率	38.4%
歳出総額	26,288,862千円			
実質収支	464,142千円		市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2
標準財政規模	12,587,567千円		(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2
地方債現在高	22,285,902千円			



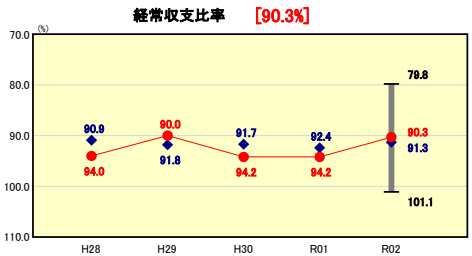
※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

財政力



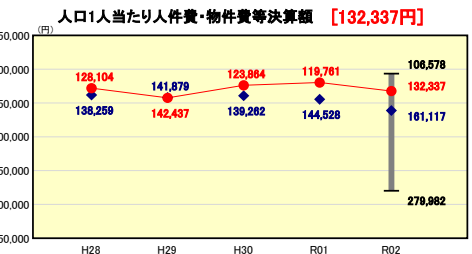
財政力指数の分析欄
 昨年度同の0.81ではあるが、基準財政収入額より基準財政需要額の伸びが多いため、単年度の指数は下がっている。
 類似団体内でも順位は高く、全国・県平均に比べても高い水準を保っている。
 法人税については、一部の大企業に頼っている状況であり、企業の業績により基準財政収入額が大きく変動する。安定した税収を得るために、現在進めている工業団地やスマートインターチェンジの整備をし、企業誘致を行い、歳入確保に努めていく。

財政構造の弾力性



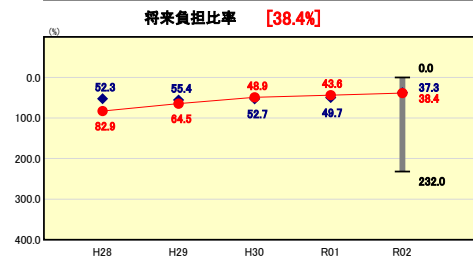
経常収支比率の分析欄
 昨年度より4.1ポイント減の90.3%と大幅に減少しているが、これは、新型コロナウイルスの影響で多くの事業を中止又は縮小したことや、市税は減少しているが、普通交付税や臨時財政対策債が増加したためである。
 今後は、工業団地の整備やスマートインターチェンジの整備を進め、さらに自主財源の確保に努めるとともに、より効果的・効率的な行政運営に努め、経常経費の抑制に一層努めていく。

人件費・物件費等の状況



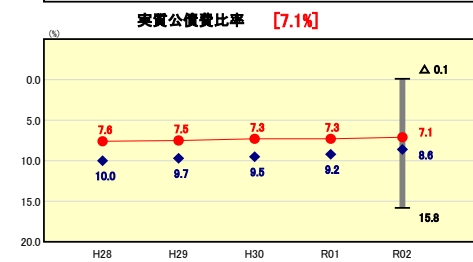
人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 昨年度より12,576円高くなっているが、これは多数の新型コロナウイルス感染症対策事業を実施したため、物件費が大幅に増加したためである。
 職員のスリム化は数年來進めてきており、これ以上のスリム化は事業に影響をおよぼしかねないため難しいが、事務経費の削減など、物件費の削減に努めていく。

将来負担の状況



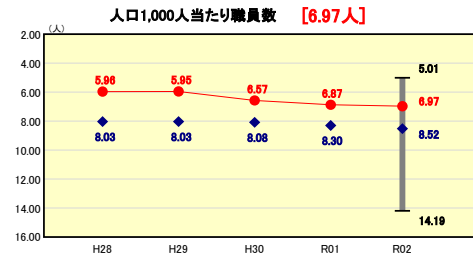
将来負担比率の分析欄
 平成29年度から毎年減少しており、令和2年度は標準財政規模が増加となっていることや特別会計等の地方債現在高の減少などにより5.2ポイント減少している。
 一方、類似団体平均値より、1.1ポイント高くなっており、今後も借入れが続くことから注意して、財政運営に努めていかなければならない。

公債費負担の状況



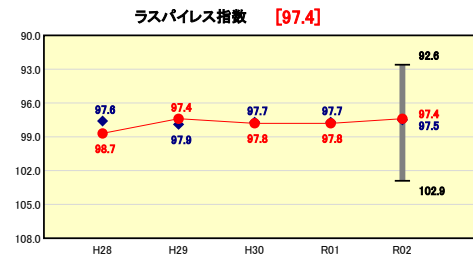
実質公債費比率の分析欄
 昨年度より0.2ポイント減少しており、類似団体平均値よりは、1.5ポイント低い値であるが、全国・県平均と比べると、まだ高い値である。
 今後も大規模事業が控えており、地方債現在高及び基金現在高の推移を見極め事業を実施していく必要がある。

定員管理の状況



人口1,000人当たり職員数の分析欄
 昨年度とほぼ横ばいで、類似団体平均と比較すると1.55人下回っており、全国・県平均よりも低い値となっている。今後も必要な人員を確保しつつ、行政サービスの低下を招かないことに留意して、職員定数の適正化に努めていく。

給与水準 (国との比較)



ラスパイレス指数の分析欄
 前年度より0.4ポイント減少しており、類似団体平均とほぼ同レベルであるが、今後も給与の適正化を図るために手当の見直し等を検討していく。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

茨城県つくばみらい市

経常収支比率の分析

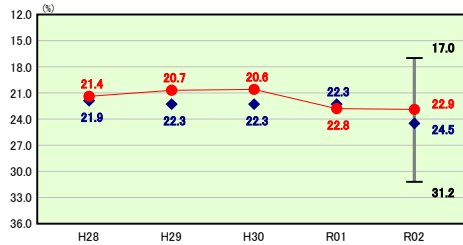
人口	52,110	人(R3.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	51,444	人(R3.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%
面積	79.16	km ²	実収公債費比率	7.1	%
歳入総額	26,910,765	千円	将来負担比率	38.4	%
歳出総額	26,288,862	千円	市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2	
実収収支	464,142	千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2	
標準財政規模	12,587,567	千円			
地方債現在高	22,295,902	千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

人件費

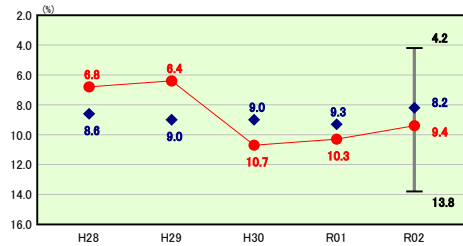
類似団体内順位 23/84 全国平均 26.8 茨城県平均 25.8



人件費の分析欄
昨年度とほぼ横ばいである。
類似団体・全国・県平均値よりも良い値である。
今後も、必要な人員を確保しつつ、行政サービスの低下を招かないことに留意しながら、新規採用の抑制や会計年度任用職員の削減など、人件費の削減に努めていく。

扶助費

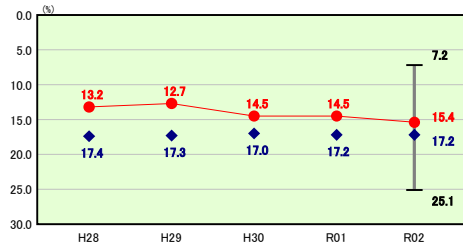
類似団体内順位 58/84 全国平均 12.4 茨城県平均 10.5



扶助費の分析欄
児童手当や小児医療費等が減少したことにより、昨年度より0.9ポイント減少しており、類似団体平均より1.2ポイント低くなっている。
扶助費については、今後は人口増に伴い、児童数や高齢者数が増加することが考えられ、増加が予測される。
扶助費が増加し、財政圧迫の要因とならないよう、抑制に努めていく。

公債費

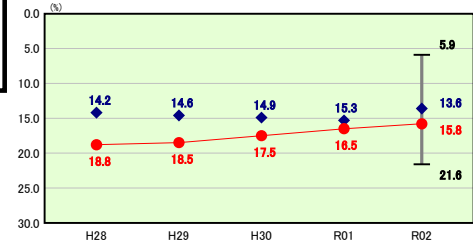
類似団体内順位 34/84 全国平均 16.3 茨城県平均 15.1



公債費の分析欄
平成28年度に借入した富士ヶ丘小学校整備事業債の元金償還が始まったこと等により、昨年度より0.9ポイント増加している。
現在は、類似団体・全国平均よりも良い値であるが、今後も、道路整備や公共施設の修繕などにより、多額の借入れを予定しているため、数値の悪化が見込まれる。
地方債の新規発行額を抑制し、数値の悪化を抑えるよう努めていく。

物件費

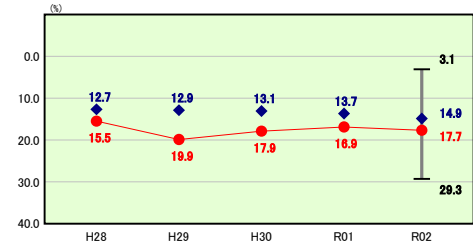
類似団体内順位 66/84 全国平均 14.3 茨城県平均 15.8



物件費の分析欄
令和2年度は新型コロナウイルスの影響により事業等が中止・縮小になったことにより、昨年度より0.7ポイント減少しているが、類似団体・全国平均よりも高い値となっている。
今後も、事務経費の削減を図り、類似団体平均値に近づけるよう努めていく。

補助費等

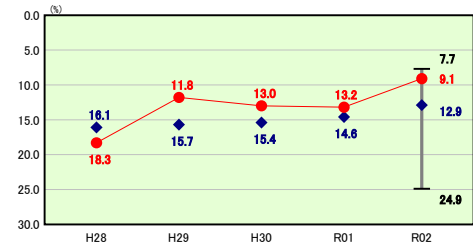
類似団体内順位 59/84 全国平均 10.7 茨城県平均 12.1



補助費等の分析欄
公共下水道会計が企業会計に移行したことに伴い、繰出金から補助費等になったことにより、昨年度より、0.8ポイント増加しており、類似団体平均と比較すると2.8ポイント高く、全国・県平均値と比較してもかなり高い値となっている。
今後は、補助金の見直しや、一部事務組合の予算自体の見直しも必要である。

その他

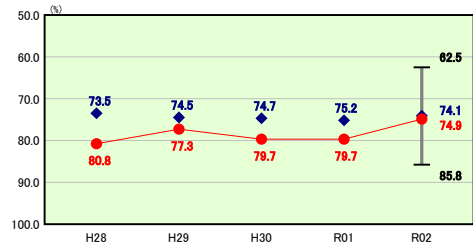
類似団体内順位 6/84 全国平均 12.6 茨城県平均 12.4



その他の分析欄
令和2年度は、特別会計等の地方債現在高が減少したことなどにより、繰出金が減額となったことから昨年度より4.1ポイント減少した。
類似団体平均より3.8ポイント低くなっている。
今後は、繰出金等の精査を図り、普通会計の負担額を減らしていくよう努める。

公債費以外

類似団体内順位 40/84 全国平均 76.8 茨城県平均 76.6



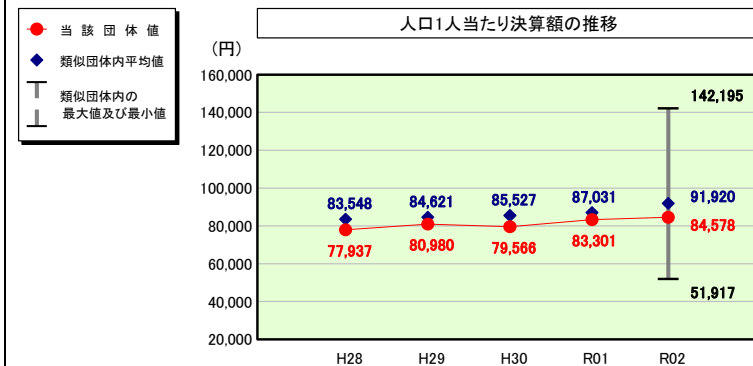
公債費以外の分析欄
昨年度より4.8ポイント減少しており、類似団体平均と比較すると0.8ポイント高くなっているが、全国・県平均よりは低い数値となっている。
今後は、公債費以外の全体的な歳出抑制に努めていく。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和2年度

茨城県つくばみらい市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

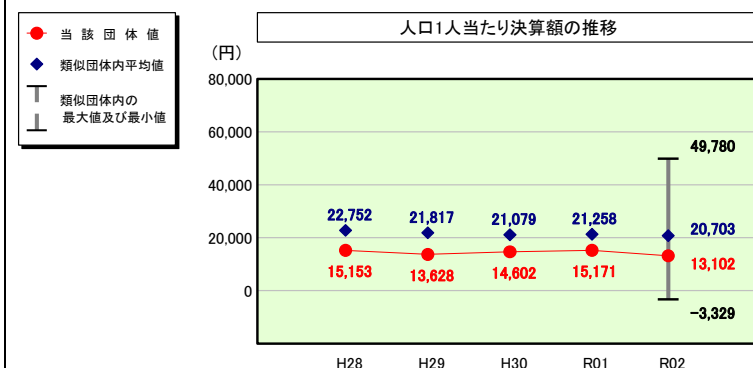
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	3,286,378	63,066	83,474	▲ 24.4
一部事務組合負担金(補助費等)	1,043,967	20,034	8,278	142.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	14,723	283	1,520	▲ 81.4
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	7,669	147	13	1,030.8
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	182,345	3,499	2,948	18.7
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	81,320	1,561	1,798	▲ 13.2
▲退職金	▲ 209,064	▲ 4,012	▲ 6,111	▲ 34.3
合計	4,407,338	84,578	91,920	▲ 8.0

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.97	8.52	▲ 1.55
ラスパイレス指数	97.4	97.5	▲ 0.1

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

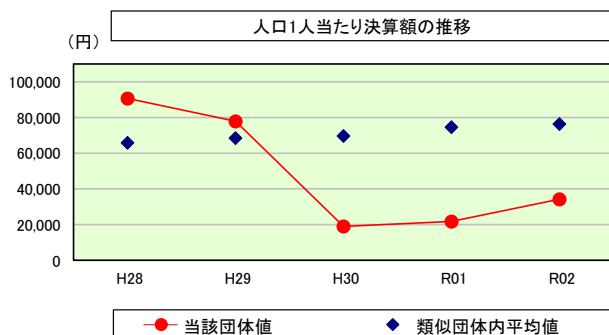


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	2,019,002	38,745	52,518	▲ 26.2
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	24	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	480,932	9,229	18,573	▲ 50.3
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	507,594	9,741	2,920	233.6
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	483	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 397,769	▲ 7,633	▲ 4,335	76.1
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 1,927,016	▲ 36,980	▲ 49,481	▲ 25.3
合計	682,743	13,102	20,703	▲ 36.7

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H28	4,622,691	90,693	▲ 6.1	65,876	▲ 19.4	13.3
うち単独分	838,448	16,450	17.0	36,484	▲ 3.8	20.8
H29	4,019,949	77,921	▲ 14.1	68,468	▲ 3.9	▲ 18.0
うち単独分	808,823	15,678	▲ 4.7	34,140	▲ 6.4	1.7
H30	979,361	18,969	▲ 75.7	69,729	1.8	▲ 77.5
うち単独分	691,629	13,396	▲ 14.6	38,908	14.0	▲ 28.6
R01	1,126,886	21,740	14.6	74,581	7.0	7.6
うち単独分	803,723	15,505	15.7	41,563	6.8	8.9
R02	1,785,512	34,264	57.6	76,347	2.4	55.2
うち単独分	1,168,183	22,418	44.6	41,762	0.5	44.1
過去5年間平均	2,506,880	48,717	▲ 4.7	71,000	▲ 0.9	▲ 3.8
うち単独分	862,161	16,689	11.6	38,571	2.2	9.4

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

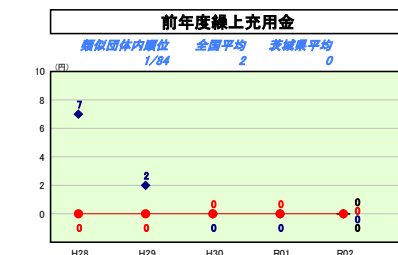
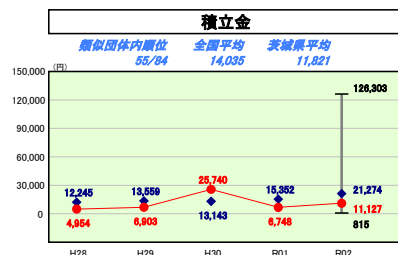
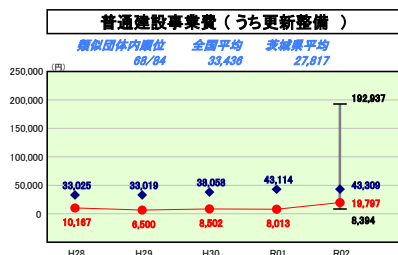
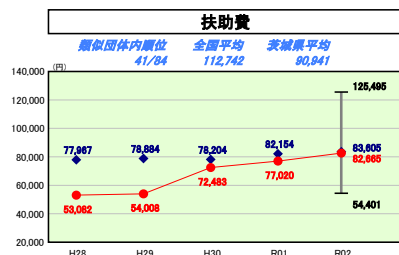
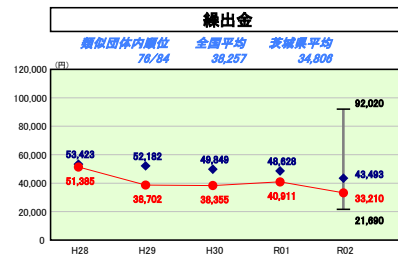
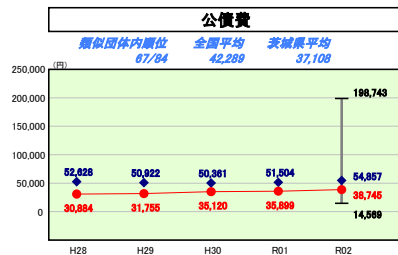
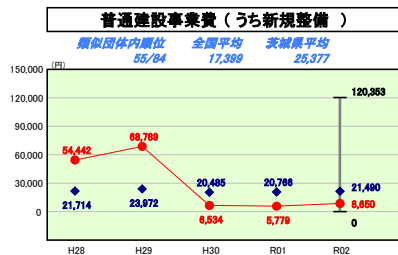
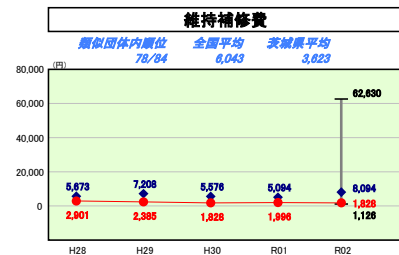
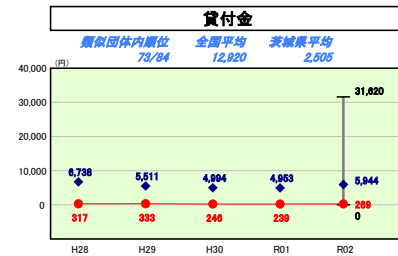
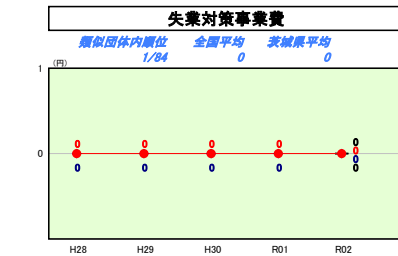
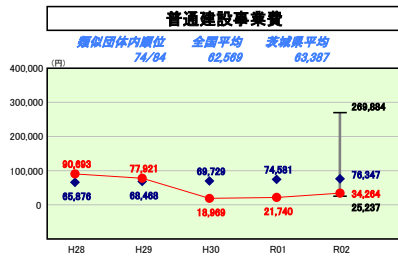
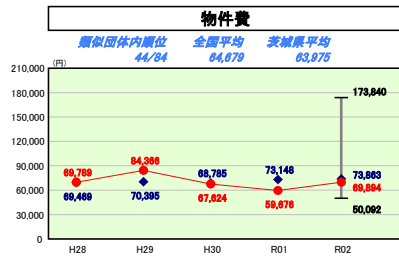
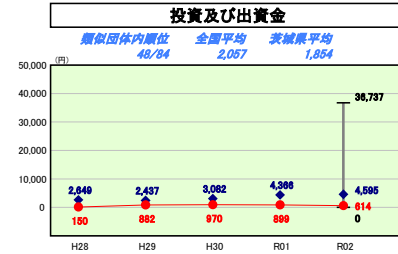
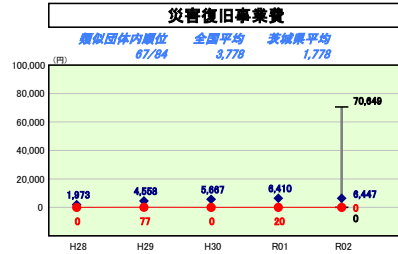
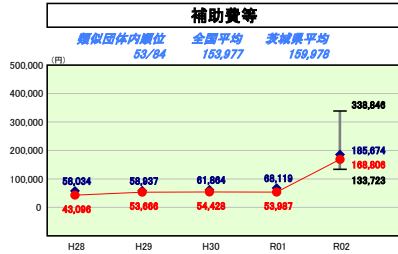
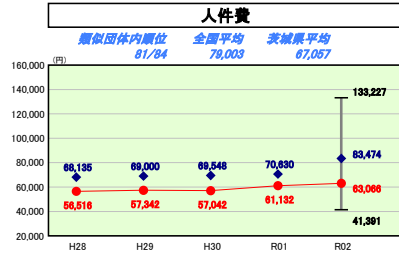
令和2年度

茨城県つくばみらい市

人口	52,110人(03.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	51,444人(03.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	79.16k㎡	実質公債費比率	7.1%
歳入総額	26,910,765千円	実質負担比率	38.4%
歳出総額	26,288,882千円	市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2
実質収支	464,142千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2
標準財政規模	12,587,587千円		
地方債現在高	22,295,902千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と云う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

歳出決算総額は、住民一人当たり504,488円となっており、昨年度から144,222円増加している。主な要因としては、コロナウイルス感染症対策で補助費等が114,819円、物件費が10,218円増加したためである。
 扶助費は、昨年度より5,645円増加しており、今後も人口増に伴い、児童数や高齢者数が増加することが考えられるため、増加が予測される。扶助費が増加し、財政圧迫の要因とならないよう、抑制に努めていく。
 普通建設事業費は、住民一人当たり36,264円となっており、昨年度より12,524円増加している。そのうち新規整備は、11,784円増加しており、主な要因は防災行政無線デジタル化工事や小中学校校内通信ネットワーク整備工事を実施したためである。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

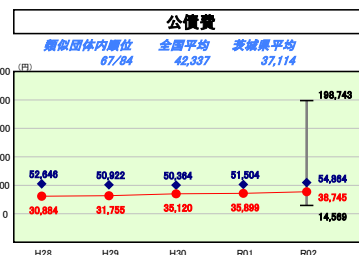
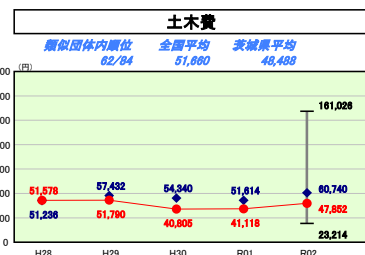
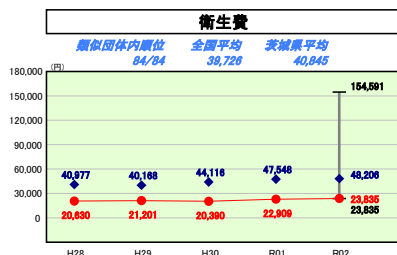
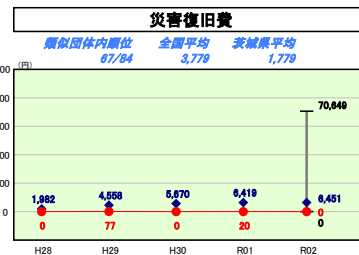
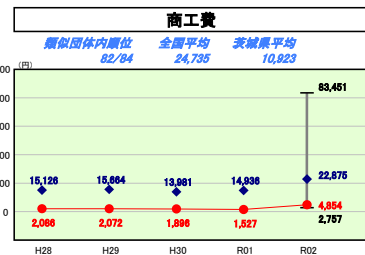
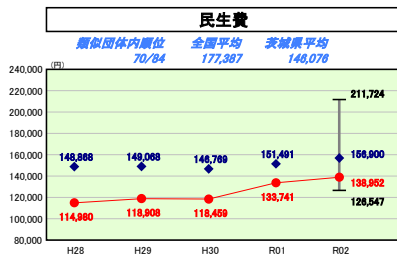
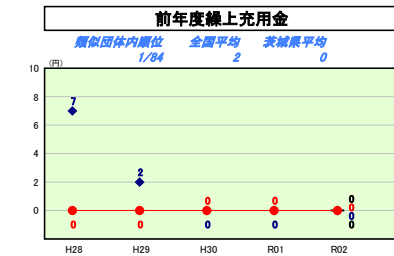
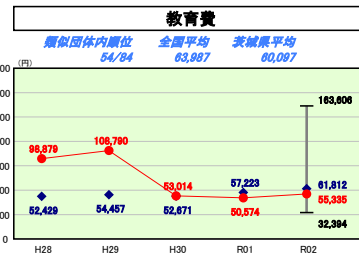
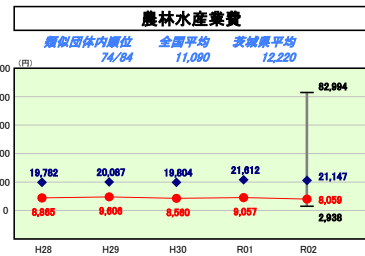
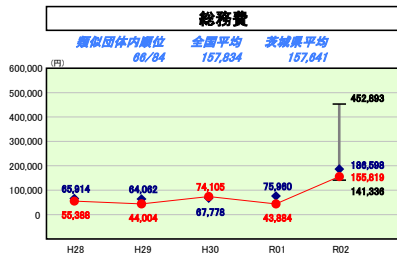
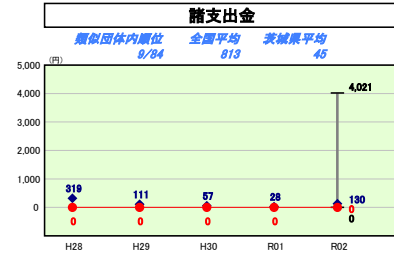
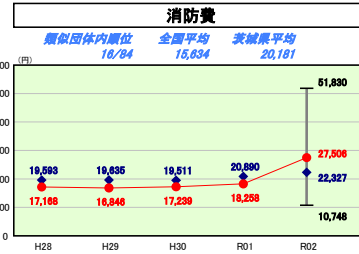
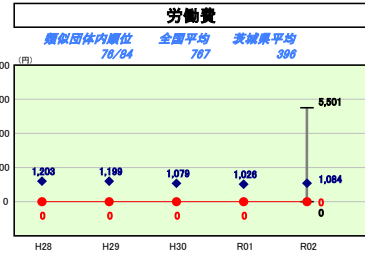
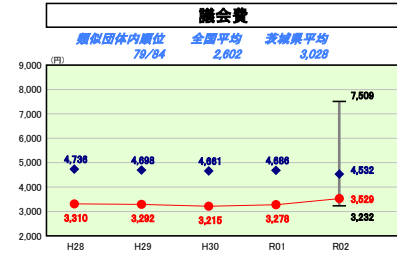
令和2年度

茨城県つくばみらい市

人口	52,110人(第3.1.1項在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	51,444人(第3.1.1項在)	連結実質赤字比率	-%
世帯	79,116世帯	実質公債費比率	7.1%
歳入総額	26,910,765千円	将来負担比率	38.4%
歳出総額	26,288,882千円	市町村類型	H28 I-2 H29 I-2 H30 I-2
実質収支	464,142千円	(年度毎)	R01 I-2 R02 I-2
標準財政規模	12,587,587千円		
地方債現在高	22,295,902千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和2年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

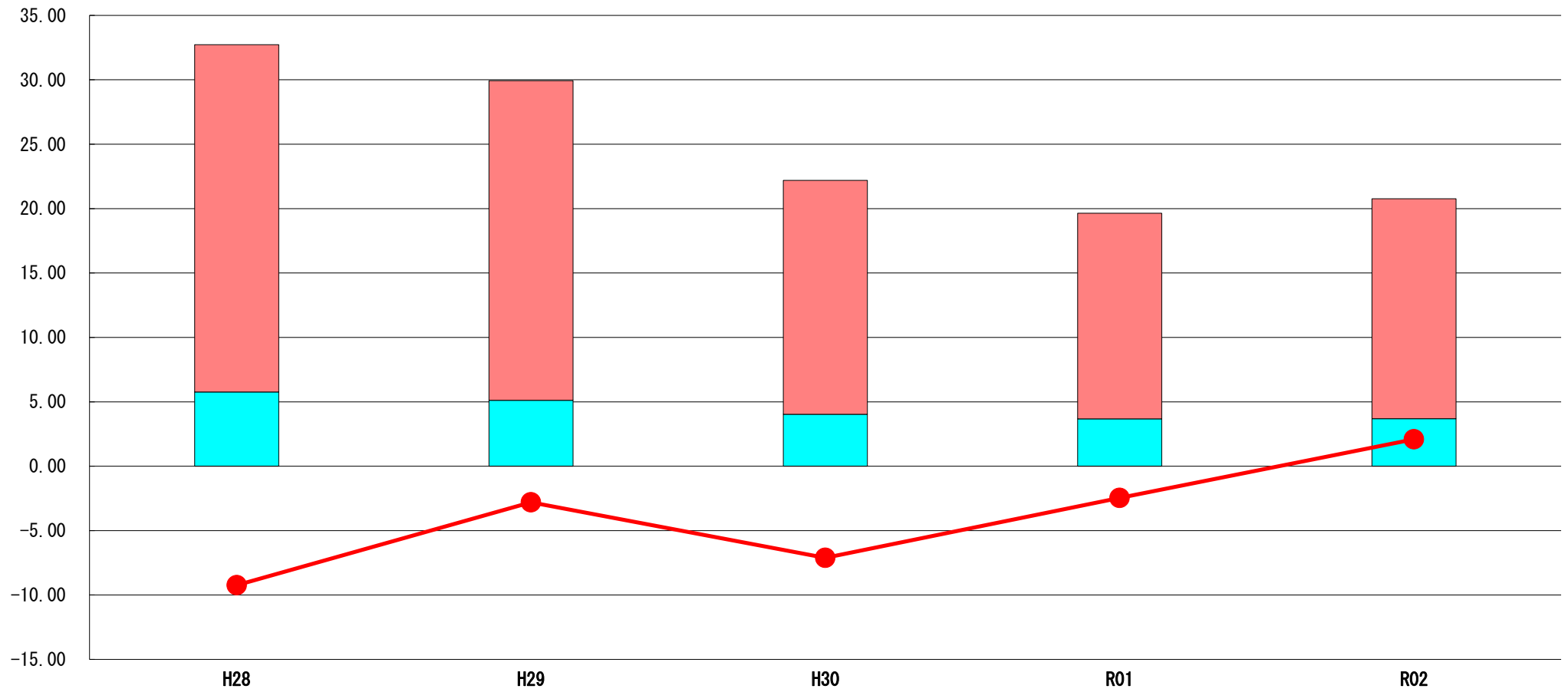
総務費は、住民一人当たりのコストが155,819円で前年度から111,935円の大増となっている。主な要因としては、特別定額給付金事業など多くの新型コロナウイルス感染症対策を実施したためである。
 民生費は、住民一人当たりのコストが138,952円で前年度から5,211円増となっている。主な要因としては、子育て世帯・ひとり親世帯への給付金など多くの新型コロナウイルス感染症対策を実施したためである。
 商工費は、住民一人当たりのコストが4,854円で前年度から3,327円増となっている。主な要因としては、プレミアム付商品券など多くの新型コロナウイルス感染症対策を実施したためである。
 土木費は、住民一人当たりのコストが47,852円で前年度から6,734円増となっている。主な要因としては、守谷小絹線整備事業や福岡工業団地整備事業などを促進したためである。
 消防費は、住民一人当たりのコストが27,506円で前年度から9,248円増となっている。主な要因としては、防災行政無線デジタル化工事を進めたためである。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析 (市町村)




令和2年度

茨城県つくばみらい市

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

区分	年度	H28	H29	H30	R01	R02
 財政調整基金残高		26.97	24.81	18.16	15.96	17.08
 実質収支額		5.76	5.12	4.03	3.68	3.69
 実質単年度収支		▲ 9.24	▲ 2.81	▲ 7.11	▲ 2.46	2.09

分析欄

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの事業が中止や縮小となったことから、財政調整基金に積立をしたことにより、実質単年度収支は黒字となっている。

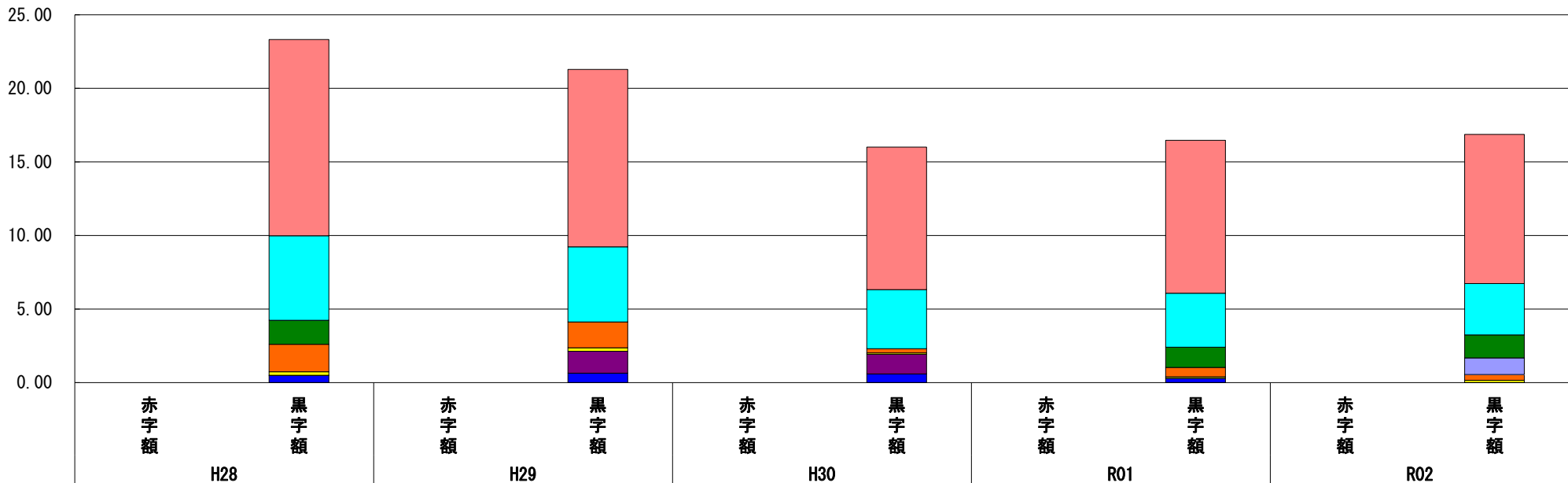
令和3年度以降も基金残高に注視し、事務事業の整理合理化を図るなど歳出の抑制に努めながら適正に管理していく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和2年度

茨城県つくばみらい市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H28	H29	H30	R01	R02
水道事業会計		13.34	12.06	9.69	10.39	10.14
一般会計		5.74	5.11	4.01	3.67	3.49
介護保険特別会計		1.64	0.01	0.00	1.38	1.56
下水道事業会計		-	-	-	-	1.13
国民健康保険特別会計		1.87	1.74	0.29	0.63	0.39
農業集落排水事業特別会計		0.23	0.24	0.09	0.11	0.15
後期高齢者医療特別会計		0.01	1.49	1.34	0.00	0.01
市営分譲住宅特別会計		0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.48	0.64	0.59	0.29	-

分析欄

全ての会計で赤字はなく、健全な財政状況である。
 水道事業会計の黒字額が他会計に比べて多いが、今後、インフラ更新が控えているためであり、計画的に事業を進めていく必要がある。

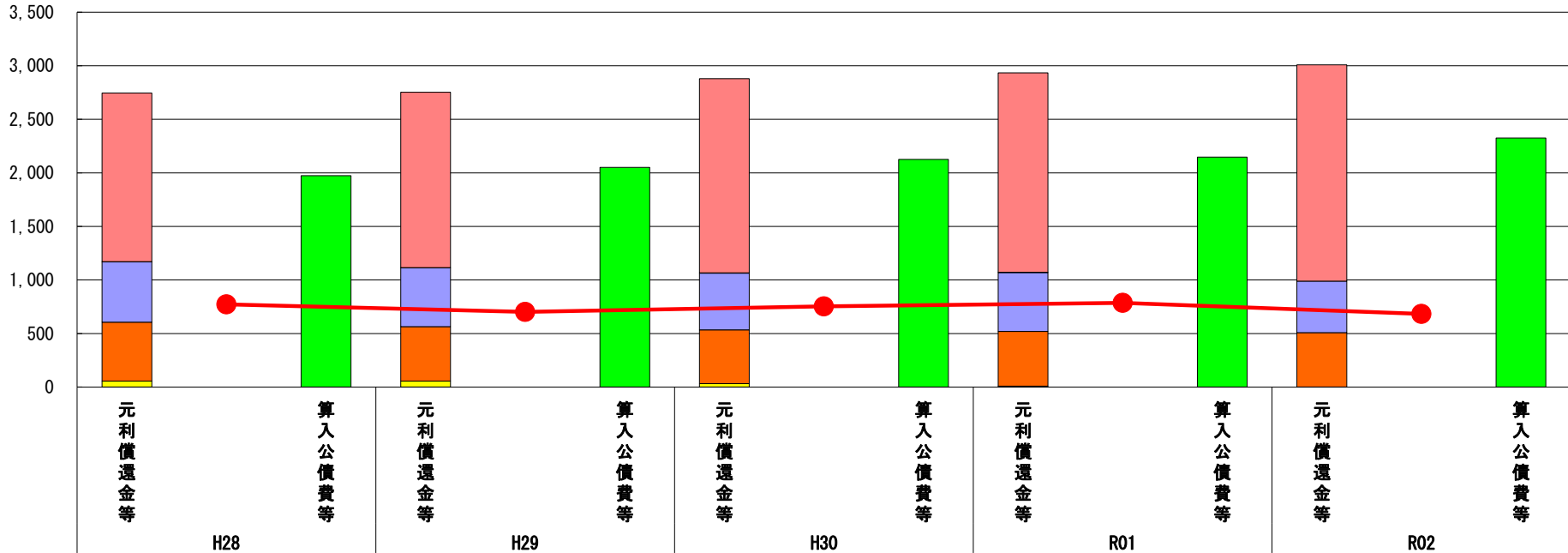
※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

茨城県つくばみらい市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
元利償還金等 (A)	元利償還金		1,574	1,638	1,813	1,861	2,019
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		3	3	3	3	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		562	548	529	549	481
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		550	508	502	511	508
	債務負担行為に基づく支出額		56	56	32	9	-
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		1,973	2,051	2,126	2,147	2,325
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		772	702	753	786	683

分析欄

実質公債費比率の分子は、昨年度に比べ、103百万円減少している。これは、元利償還金が増加しているものの、特別会計の地方債現在高が減少したことによる公営企業の元利償還金に対する負担金等が減少したことや臨時財政対策債などの算入公債費等が増加していることによるものである。

今後も、市全体の予算の見直しを行い、経費の削減をしていかなければならない。

※1 令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

分子の構造		年度	H27末	H28末	H29末	H30末	R01末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)		40	60	80	100	-
	減債基金積立相当額		3	7	10	13	-

分析欄

平成30年度までは利用していたが、令和元年度以降は、満期一括償還を利用していないため、該当なし。

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

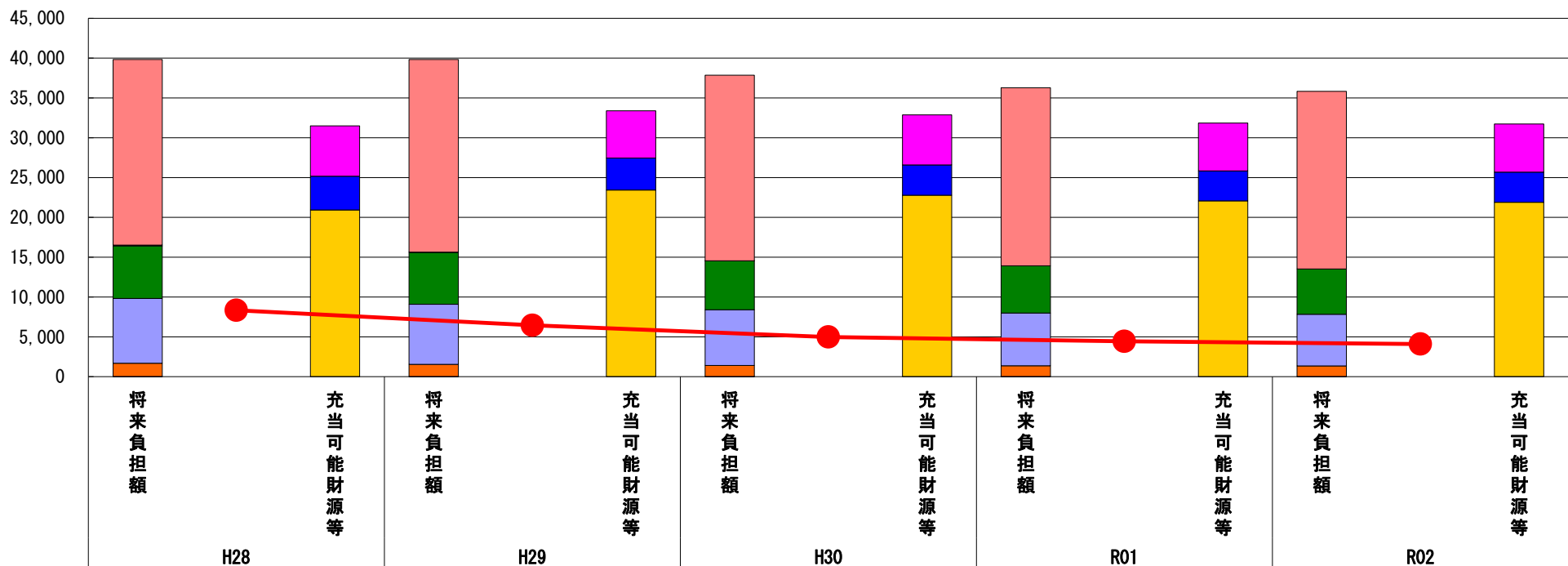
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和2年度

茨城県つくばみらい市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H28	H29	H30	R01	R02
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		23,317	24,191	23,298	22,365	22,296
	債務負担行為に基づく支出予定額		92	34	8	-	-
	公営企業債等繰入見込額		6,600	6,511	6,133	5,923	5,692
	組合等負担等見込額		8,137	7,538	6,997	6,615	6,494
	退職手当負担見込額		1,685	1,549	1,409	1,373	1,337
	設立法人等の負債額等負担見込額		5	5	2	3	7
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		6,339	5,928	6,273	6,008	6,052
	充当可能特定歳入		4,226	4,025	3,812	3,765	3,774
	基準財政需要額算入見込額		20,934	23,432	22,782	22,070	21,905
(A) - (B)	将来負担比率の分子		8,336	6,442	4,979	4,435	4,095

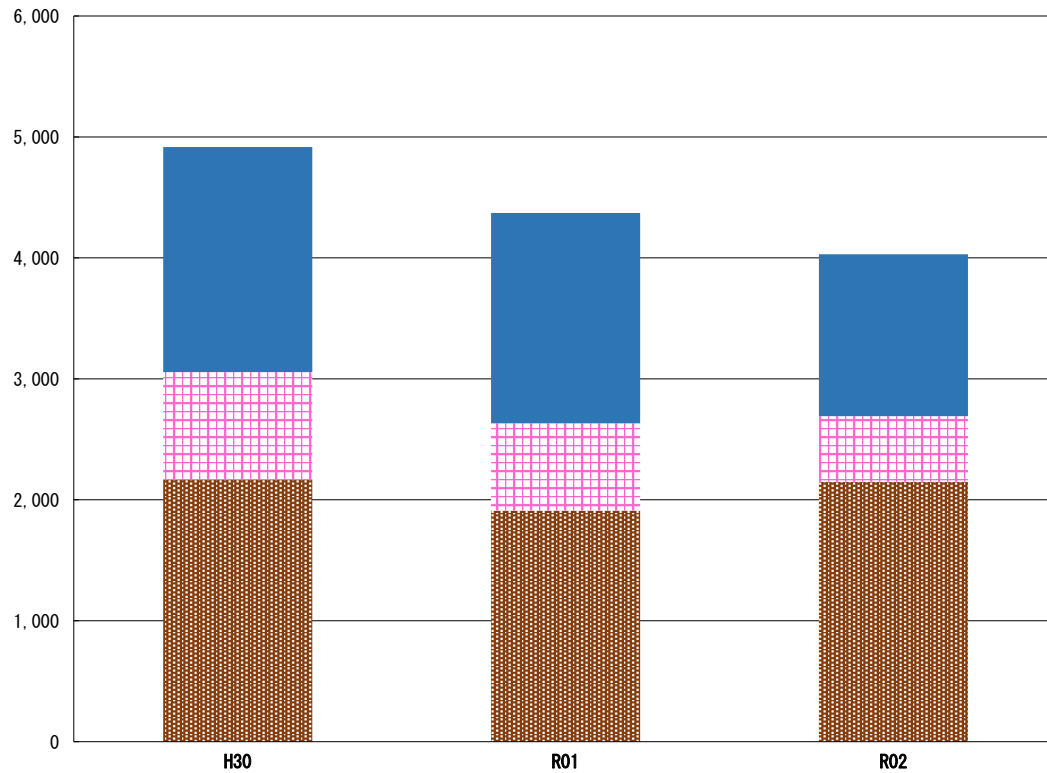
分析欄

一般会計等に係る地方債現在高については、平成30年度以降は一部の地方債の償還が終了したことにより平成30年度は8.9億円、令和元年度は9.3億円、令和2年度は0.7億円減少しており、令和3年度以降についても減少していく見込みである。今後は、地方債の償還額と借入のバランスを考慮しながら予算編成に努めていく。

※令和3年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

（百万円）



（百万円）

区分	年度	H30	R01	R02
財政調整基金		2,164	1,910	2,149
減債基金		892	722	542
その他特定目的基金		1,861	1,739	1,339
ふるさとづくり基金		1,027	850	567
公共施設整備基金		264	264	263
地域福祉基金		320	286	251
ふるさと基金創生基金		250	239	220
みらいこども基金			100	32
基金残高合計		4,917	4,371	4,031

令和2年度

茨城県つくばみらい市

基金全体

（増減理由）
新型コロナウイルスの影響により、多くの事業が中止や縮小となったため、財政調整基金に239百万円を積み立てているが、一般会計の財源として減債基金やふるさとづくり基金などを取り崩していることから、全体では340百万円減少している。

（今後の方針）
基金の用途の明確化を図るために、財政調整基金を取り崩して個々の特定目的基金に積み立てていくことを検討している。

財政調整基金

（増減理由）
公債費の財源として、180百万円取り崩している。

（今後の方針）
財政調整基金の残高は、標準財政規模の15%から20%の範囲内となるように努める。

減債基金

（増減理由）
公債費の財源として、180百万円取り崩している。

（今後の方針）
令和3年度以降も公債費が増加するため、減債基金を効果的に活用していく。

その他特定目的基金

（基金の用途）
ふるさとづくり基金：安心して暮らせるまちづくり事業などの財源として活用していく。
地域福祉基金：地域における高齢者保健福祉の推進及び民間福祉活動に対する助成。
みらいこども基金：こどもを育てるための環境整備の充実のための基金。

（増減理由）
ふるさとづくり基金：該当事業などの財源として取り崩したため、283百万円減少している。
地域福祉基金：該当事業の財源として取り崩したため、35百万円減少している。
みらいこども基金：該当事業の財源として取り崩したため、68百万円減少している。

（今後の方針）
ふるさとづくり基金以外については、財政調整基金の用途を明確化するため、他基金に積み立て、現金金を必要な事業に有効に活用していく。
ふるさとづくり基金は、ふるさとづくり寄附金で増額できるような市内特産品等をPRし、基金の増加に努め、必要事業に充当する。